

会 議 録

| | |
|---------------|---|
| 名 称 | 平成28年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第2回） |
| 日 時 | 平成28年10月24日（月）午前10時～正午まで |
| 会 場 | 目黒区総合庁舎本館1階 E会議室 |
| 出席委員 （敬称略） | 安井、庄司、平尾、鈴木、佐藤、松田、小林（富）、亀甲、大竹、藤橋、小林（雅）、 角田、斎藤、清水、古城、平田、大越 |
| 区側職員 | 村田環境清掃部長、織田清掃リサイクル課長、石田環境保全課長、伊藤清掃事務所長 |
| 傍 聴 者 | 0名 |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第8期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿（平成28年5月23日現在） ・資料2 平成27年度目黒区のごみ量と資源回収量について ・資料3 蛍光管等分別回収の実施状況について ・資料4 MGR100プロジェクト・スタートキャンペーンの取組結果について |
| 会議次第 | <p>1. 開会</p> <p>20人中、出席者は17人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、 会は成立する。</p> <p>2. 議題</p> <p>以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。</p> <p>環境清掃部長・・・・・・・・・・部 長 清掃リサイクル課長・・・・・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長</p> <p>（1）第8期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿(平成28年5月23日現在)について リ課長 （資料1に基づいて説明）</p> <p>（2）平成27年度目黒区のごみ量と資源回収量について リ課長 （資料2に基づいて説明）</p> <p>委 員 家庭から出るごみと、事業系ごみも一部シールを貼って有料で区が収集している。 この中の事業ごみが、どれくらい入っているのかは、推定でもなかなか数字 が出てこないが、なんとか区の方でも事業系ごみのある種のとらえ方、どれくら いなのか、あるいはどんな傾向なのか、何か表示できるような工夫は今後考えて もらいたい。</p> <p>リ課長 今回ご説明した実績は、区が収集するごみ量となる。これは、一般家庭のごみ と小規模事業者のごみを併せたものとなっている。事業系ごみは、区収集ではな く、事業者が自ら処理するものもある。清掃工場に事業者が個別に持ち込むごみ 量の推移をみると、平成21年の19646tから平成26年の20791tと増加している。 この一方で、区収集のごみ量の中に含まれる事業系のごみ量を推計する材料</p> |

として、例えば有料シールの販売実績をみると、21年度には76887t分、27年度には74104tと減っているように見える。指摘のように、事業系の中に有料シールがちゃんと貼られていない部分もあるのではないかと懸念がある。ただし、その大量なごみを、一つ一つ中身を見て判別するのは、非常に困難である。このため、事業系ごみが適正に排出されるように、みなさんにも議論頂き、様々な方策を検討していきたい。

委員 チェーンストア協会としては、効率的にごみを減らす、もしくは有効活用するというような取り組み（食品リサイクル等）も併せて行っている。

リ課長 事業のみ実施している事業所のごみについては当然事業系のごみとなり、家庭ごみとの混入をあまり懸念していない。いわゆる住居と商売の場所が一体となっているケースなどについては判別が難しい。

委員 今度、目黒清掃工場が建て替えになるが同じ規模で建てることになっている。私たちがプラを一所懸命分別回収しているのに、結局他区から分別されないプラスチック製ごみが入って来る。清掃工場に持込まれる事業系ごみの中に、プラスチック製ごみ量がどれくらいあるのか。

リ課長 区収集ごみの中の事業系ごみは、総量を把握できるシステムがないため、中身についても把握することは困難である。また、事業系ごみのうち、例えば産業廃棄物は、一般廃棄物とは違うルール、カテゴリーの中で処理され、品目も限定されていることから、プラスチックが混入するケースは少ないと考えている。持込ごみの組成については、説明できる材料がない。

委員 フードロスについて聞きたいが、賞味期限と消費期限があるのがいけないと思う。近隣の自治体や東京都もフードバンクに取り組んでいるが、目黒区はやらないのか。

会長 東京都の廃棄物審議会で、フードロスっていうのが一つの話題ではある。やはりその時に消費期限、賞味期限この違いっていうのは大きいと言っているが、これは正に仕組みの問題よりも消費者のマインドの問題で、一番新しいものを一番後ろから取り出して買うって人が多いので、売れなくなる。

リ課長 フードバンクについて、現状区が事業として取り組む予定はないが、研究はしている。フードバンクの活動を行う大きな団体では、食品メーカーや大量生産の工場等の事業所などから提供を受けている。その際に、賞味期限が切れて廃棄予定であるが、消費期限までに実際に消費される方に届けるという流通ルートが必要になると聞いている。また、一定程度、恒常的に提供する必要もあるため、品目についても、バランス良く確保するのは難しいと聞いている。安定的に事業として実施できる体制の要件や、自治体が協力できる役割なども含めて検討しながら、最終的には連携ができれば素晴らしいと考えている

委員 テナント等、借りている方は区外在住者が多く、その人たちのごみ出しが良くなく、区や商店街がやっている政策も知らない。区民は一所懸命、分別をやっているが、区外の人たちが区内に入ってきて出すごみという問題も、ひとつ課題と

してあるのではないか。

リ課長 一廃計画の基本理念の中に、継続した取組を続けていくためには、暮らしや事業活動の快適さ、ゆとりが損なわれてしまったりは立ち止まってしまうという記載がある。審議会の答申の中からの理念を頂いている。いいことだから、即やる、そのために他がすべて犠牲になってもという形になってしまうと長く続かない。このリスクをできるだけ回避することも大事だというふうに計画の中でも述べている。先ほどのフードバンクについて、アメリカのスターバックスが売れ残りの食品をフードバンク事業に提供するという話が出ている。在庫の流通に責任が持てるような企業の協力を得るため、消費者に対する自分たちのC Iや宣伝効果も含めて、協力主体がメリットを感じながら取組を継続できる仕組み作りが有効であると考えている。

(3) 蛍光管等分別回収の実施状況について

事務所長 (資料3に基づいて説明)

会 長 最終的に回収したものは、北海道に行っているのか。

事務所長 北海道に行っている。

会 長 北海道のイトムカという所に水銀鉱山が昔あって、そこで取れていたところに戻している。どうやって貯めるか決まったのか。

事務所長 蛍光管については、水銀の他、口金、ガラス等を再資源化している。水銀は焙焼、精製のうえ水銀として再生し活用されている。

会 長 水銀は液体なので、液体をどうやって貯めるのか。一旦硫化物にして個体にして貯めるのか。多分、国が検討することだけど、事業者がやるのか。

事務所長 現在回収した水銀の一部が製品として出荷しているが、余剰水銀の保管方法等については国が検討している。

委 員 燃やさないごみの月2回のうち、地域によってどちらか一回を水銀を含む製品の回収と規定されているが、まだまだ区民への周知は難しいのでは。

事務所長 水銀製品は、もう一日の燃やさないごみの日に出している可能性がある。また割れてしまった蛍光管については不燃ごみとして出していただく等、引き続き区民の皆さんにお知らせする必要がある。現状の把握に努めながら今後もPRを行っていく。

リ課長 計画改定と共に、区民向けのパンフレット「資源の分け方出し方」についても大幅に改定している。水銀含有物については、新たな項目を設定し、色を変えるなど目立つように工夫している。また、水銀含有物分別についてのチラシを回覧しているが、これも継続的に実施していく。排出量については、丸型蛍光管をそのままLEDに替える商品が開発されるなど、今後、排出量が増えると考えている。

委 員 コストの問題はよくわからないが、燃やさないごみ2回とも出せないのか。

事務所長 現在、委託により、日々3台の軽トラックで蛍光管等を回収している。月2回

の回収になると、コストが増加するため、今後の回収状況を見ながら費用対効果について検討していく必要がある。

リ課長 コスト面での検証・努力は続けていくが、現実的に、条約発効と同時に水銀を含む製品の製造自体が禁止されているため、家庭内や事業所に退蔵されているものの排出量を見ながら、今後供給がない中で、費用対効果を精査する必要がある。

(4) MGR100プロジェクト・スタートキャンペーンの取組結果について

リ課長 (資料4に基づいて説明)

会 長 動画等はどこかで見れるようになっているのか。

リ課長 応募作品は全て、現在庁舎内のロビーに掲示している。また、HPにも全て掲載している。

会 長 今回、良い内容の動画ばかりだが、本当に困っている動画って作る気はないか。

リ課長 ご意見を参考とさせていただく。現在は、区民の皆様個人から自発的な応募をいただきたいと考えているため、今後も継続的に応募作品を受け付けるようにしている。

委 員 動画を見たが、これから効果の検証もされると思う。今後も分かりやすく、効果が出るように継続的にやってもらいたい。また、行政としての役割と、企業の役割と、区民の役割を整理したうえで、行政としては広報・周知・啓発にこれからも力を入れて行っていただきたい。

リ課長 今回のMGR100 キャンペーンについても、審議会から、分かりやすく、そして今までにないようなキャッチーな形で注目度を高めようと、ご意見を頂いたところからスタートしている。このような取組を今後とも継続していきたい。

委 員 区の方で様々な取組をしているが、取組によってかかったコストと、それによってゴミが削減した部分のコストというのは比較検討などするのか。

リ課長 様々な施策はごみ減量を目的にしているが、普及啓発の取組については、区民のマインドにどのように作用して、どれだけの結果が出るのかということ、一対一の突合で検証するのは非常に難しいと考えている。今回27年度の確定実績でご報告しているように、大きなスパンで年度年度の実績を踏まえ、我々の取り組み総体の効果検証していきたいと考えている。

会 長 最近、様々な施策に金銭的な投資をすると、その効果を検証しろと言われるが、できない。というのは最終的な目標は、この目黒区を住み良い場所にあること。この価値をどう見るか。それを金銭にちゃんと換算しろよと言われてたら、相当大変である。効果の検証をやるというのは、それこそ区民がごみについては、これで良いと言う人が、どれだけ増えたかということなのかも知れない。そのような調査はあまりされていない。

リ課長 区民の皆様は、より強くメッセージを伝えるために、今回審議会のご意見を踏まえてMGR100という取組を実施したが、従来、また他区では事例が少ない取組でもあり、事務的にも予算的にも困難なハードルがありました。事務局の手前

味噌ですが、職員がそのハードルを一つ一つ乗り越えて行って形にしてきました。このように、審議会の皆様と想いを共にして事業活動を行うことで、区民の皆様にもメッセージが伝わっていくのではと考えています。今後も、皆様のご意見をいただきながら、このような事業を進めていきたいと考えている。

3. 閉会

以 上